

ぞん ご存じですか

【じゃんけん】

じゅんばん き ちい しょうぶごと しょうはい き にほんじん
順番を決めたり、小さな勝負事の勝敗を決めるときに、日本人はよく

て にぎ いし て ひら かみ ゆび にほん
じやんけんをする。手を握りしめたのを石、手を開いたのを紙、指を二本だ

の よ かみ か かみ いし か いし
け伸ばしたのをはさみと呼び、はさみは紙に勝ち、紙は石に勝ち、石ははさ

か たにんずう さい
みに勝つというルールだ。じゃんけんは多人数でやることもできる。その際は、

ま ひと ぬ か のこ もの ふたた ほうほう さいご
負けた人が抜け、勝ち残った者が再びじゃんけんをするという方法で、最後

しょうしや き
の勝者を決める。

ほんらい ちゅうごく にほん はい えどじだい
じゃんけんは本来は中國から日本に入ってきたものだが、江戸時代には

とうはちけん あそ とうはちけん しょうや きつね りょうし
藤八拳をはじめいろいろな遊びがあった。藤八拳は、庄屋・狐・猟師が

しょうや りょうし か りょうし きつね か きつね しょうや か
それぞれ庄屋は猟師に勝ち、猟師は狐に勝ち、狐は庄屋に勝つというル

か おとな
一で、じゃんけんのルールと変わらないが、トーナメントまであって大人の

あそ りゅうこう
遊びとして流行した。

【はちまき】

ほそなが おびじょう ぬの あたま ま おおむかし しゅうきょうてき いみ
細長い帶状の布で頭に巻くもの。大昔は宗教的な意味があつて

ぎしき つか ろうどう さい あせど せいしんてきこうよう つか
儀式に使われていたが、労働の際の汗止めや、精神的高揚のために使われ

ひたい ひ まる いんさつ ひ まるはちま
るようになつた。額のところに日の丸を印刷した日の丸鉢巻きは

だいにじたいせんちゅう こうはんい つか ゆうめい さっか
第二次大戦中に広範囲に使われたため有名になった。また、作家の

みしま ゆきお せっぷく さい ひ まるはちま こくさいてき し
三島由紀夫が切腹をした際に日の丸鉢巻きをしていたため国際的にも知れ
わたった。

なに とくべつ がんば はちま しゅうかん いま
何か特別に緊張して頑張ろうとするときに鉢巻きをしめる習慣は今でも
ある。1932年のロサンゼルスオリンピックで、100メートル走者の
よしおかたかのりせんしゅ はちま わら いま
吉岡隆徳選手が鉢巻きをして笑いものになったが、今は、スポーツではへ
ッドバンドとして国際的に使われている。

【カラオケ】

えいご
カラオケは英語のシュージックマイナスワンからアイディアを得たもので、
うた ともな いみ さいきんじゅうすうねん りゅうこうか ばんそう
歌を伴わないオーケストラという意味だ。最近十数年、流行歌の伴奏の
たいりょう う だ えんかい しゅっせきしゃ こうたい
みのカセットテープが大量に売り出され、宴会などで出席者が交替でマ
も うた しゅうかん せいりつ のうそんちほう ちほうとし
イクを持って歌う習慣が成立した。農村地方や地方都市では、カラオケ
どうこうかい う うた もくでき しゃこう いつしゅ しゃかいげんしよう
同好会が生まれ、歌そのものを目的とした社交は一種の社会現象になつ
ている。

れきしてき えどじだい しゅえん ば しゅっせきしゃ うた おど えん
歴史的には、江戸時代から酒宴の場で出席者がつぎつぎに歌や踊りを演
でんとう はっせい えいきょう そうぞう
じる伝統があったが、これがカラオケの発生に影響しているものと想像さ
れる。